

# J Aグループ鳥取自己改革推進レポート（3月号）

## 1. J Aグループ鳥取の取り組み

### ① オリジナルレシピ集完成を平井知事に報告

J Aとっとり女性協議会は1月19日、平井伸治鳥取県知事を訪ね、昨年12月下旬に作成したオリジナルレシピ集の完成を報告した。同協議会の廣戸妙子会長が平井知事にレシピ集を手渡した。

同協議会の廣戸会長は「仲間作りの起爆剤として多くの方に活用してもらい、地場産食材をおいしく食べて欲しい」と話した。

平井知事は「県内産農畜産物の特徴がいかされているレシピ。使いやすく、食べ飽きず、健康的な献立となっていてよく研究されている」と太鼓判を押した。

同協議会の廣戸会長と前田四寿子副会長、遠藤聖子副会長が一押しレシピを紹介。J A鳥取いなば女性会が作成した「アスパラガスと星空舞のリゾット」、J A鳥取中央女性会の「長いもコロッケバーガー」、J A鳥取西部女性会の「郷土料理 いただき」の調理のポイントを説明した。活動紹介では、同協議会が取り組む「米ひと握り運動」など地域貢献活動を説明し、J A女性会の魅力をPRした。

### J Aとっとり女性協議会



### ② 県農林水産部と意見交換会 J A鳥取県青壮年連盟

J A鳥取県青壮年連盟は2月1日、鳥取市で県農林水産部と意見交換会を開いた。地域農業を担う農業者として、県農業施策への要望や持続可能な農業振興などについて意見を交わした。

今回で7回目の意見交換は、県より農林水産部の西尾博之部長ら7人、同連盟の潮隆博委員長ほか盟友8人、J A事務局など計21人が参加した。潮委員長は「将来の地域農業を担う盟友の思いを県政へ届ける機会とした」と意気込んだ。

同連盟のポリシーブック（政策提言集）を活用し、①生産資材高騰対策、②鳥獣被害防止対策、③食農教育支援、④スマート農業について、課題点や今後の取り組みについて意見交換した。県は、今後も同連盟と連携を図り、農業振興をサポートしたいと話した。



### ③ 「ねばりっこ」農業体験型旅行の企画 第一次産業観光利活用推進協議会

J Aグループ鳥取や県、農協観光などで組織する第一次産業観光利活用推進協議会は2月27日、琴浦町と北栄町で第2回実行委員会・研修会を開いた。新たな県内農業の体験型旅行企画による誘客や県内農畜産物のブランド化などを目指す。

体験型旅行企画や旅行商品の素材提供を通じ、県内第一次産業の魅力発信や農畜産物のブランド力の向上を目指す同協議会は、全国農協観光協会のモニターを受け入れた。出荷最盛期を迎える特産の砂丘ナガイモ「ねばりっこ」の収穫体験や、ねばりっこをふんだんに使用した地場産料理を試食し、栽培の歴史や生産者の思い、食べ方の提案を検討した。

受け入れに協力したJ A鳥取中央の長芋生産部の遠藤忠充部会長は「収穫体験を通じて産地を知ってもらえる機会としたい」と意気込んだ。

全国農協観光協会事業部の長瀬憲司担当部長は「大山を眺めながら絶好のロケーションで生産者に教わりながら安心して収穫体験ができ、大変魅力を感じた」と旅行企画を評価した。同協議会の検討を踏まえ、農協観光は2023年度以降の商品化を目指す。



### ④ 多様化する組合員ニーズに対応強化へ 県下営農指導事業実践発表会

J Aグループ鳥取は3月3日、倉吉市のJ A研修所で県下営農指導事業実践発表会を開いた。県内J Aの営農指導員6人が多様化する組合員ニーズに対応した営農指導の充実に向け、取組事例を発表。審査の結果、J A鳥取西部弓浜営農センターの山形昌太郎さんが最優秀賞に輝いた。

発表者は、日頃の営農指導の取組成果を紹介。農作業の省力化に向けスマート農業梨指導会を実施し、生産者へロボット草刈り機の導入メリットの紹介や、児童らに特産「大山ブロッコリー」の生産から収穫・販売まで体験してもらい地元農業に関心をもってもらう“農育”を提案し、未来の担い手を育成する取り組みなどを発表した。

山形さんは、特産「白ネギ」を栽培する生産者の農作業労力の負担軽減に向け「トンネルビニールはぐり機」など農作業器具の導入で、作付面積の増加につながった取り組みを報告。また、育苗や定植作業をJ Aが作業受託し、苗の販売枚数や定植枚数が年々増加していることや営農指導員の技術向上につながっている成果を発表した。山形さんは岡山県で開かれる中国地区J A営農指導員交流集會に県代表として出場する。

その他の受賞は次の通り（かっこ内はJ A名）。

優秀賞＝上原伸一（J A鳥取いなば）、森響輝（同）、山耕亘（J A鳥取中央）、安部陸也（同）、日置真大（J A鳥取西部）



## 2. 大山乳業農業協同組合の取り組み

### 全国学校給食週間に7カ所の小・中学校で出張授業開催

大山乳業農協は、毎年全国学校給食週間にあわせ、給食センターの依頼を受けて鳥取県内の小・中学校で出張授業や交流給食を行い、今年は7カ所の小・中学校で対面授業を実施した。

2月16日は岸本小学校（伯耆町）を訪れ、職員が牛のことや牛乳ができるまでの様子を工場見学体験動画とクイズで紹介した。中でも、工場見学体験動画は、学校にいながら大山乳業の工場内を覗くことができ、子どもたちからは商品数の多さに驚きの声が上がった。授業の最後には、児童の皆さんからたくさんの質問と感想があり、充実した対面授業となった。



## 3. 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

### 京都生協の「コープ・ファンミーティング」に参加

2月4日に京都市内の会場で開催された京都生協の「第24回コープ・ファンミーティング」に参加した。この催しは生協の商品の良さや産直のこだわりについて生協の組合員にもっとよく知って頂くことを目的として年に1回開催されているもの。今回は新型コロナウイルスの感染対策をとりながら3年ぶりの対面による開催となり、産直牛の良さや鳥取県畜産農協の取り組みなどについて生協の組合員に直接アピールすることができた。



## 4. JA全農とっどりの取り組み

### ① 山陰広告賞で星空舞CMがテレビCM部門で「金賞」を受賞

2月15日に発表された山陰広告賞2023にて、星空舞のCMがテレビCM部門の「金賞」を受賞し、またラジオCM部門でもすいかのCMが銀賞を受賞した。

#### ◎ 「星空舞」テレビCM

【制作】株式会社シセイ堂デザイン

【演出・楽曲】山下歩

【出演】安里星輝

#### ◎ 「すいか」ラジオCM

【制作】株式会社山陰放送



星空舞のCMについては、JA全農とっどり YouTube チャンネルにて公開中。

## ② 令和4年度 鳥取梨づくり大会を開催

2月24日に倉吉未来中心にて3年ぶりに鳥取梨づくり大会を開催し、約100名の来場者があった。コロナウイルス感染対策として、来場できなかった方のためにWEBでの配信も行った。

本大会では、ジョイント栽培コンクールの表彰もあり、琴浦町の足立秀樹さん・真由美さんが最優秀賞に輝いた。

今まで梨栽培の歴史が無かった日野郡での取り組み発表や、ジョイント栽培の生みの親である神奈川県農業技術センター果樹花き研究課長の柴田健一郎氏にジョイント栽培の現状と今後について講演いただいた。

また、鳥取大学理事・副学長の田村文男氏より「私の園芸技術論～生産者と技術者が手を携えて築いた道～」を演題に講演をいただき大盛況となった。

今後もより一層の生産拡大や、生産者の経営改善、技術向上につなげられるよう継続して大会を開催していく。



## 5. JA鳥取信連の取り組み

### 担い手コンサルティングにかかるソリューションの実践支援について

信連は、第50回JA鳥取県大会の決議事項のうち「大規模な担い手への対応強化」を重点取組施策として、JAの担い手コンサルティングの取り組みを支援している。

本取り組みは、農家・農業法人等に、経営課題についてソリューション（課題解決策）を提案するものであり、提案後も3年間にわたりソリューションの実践支援を行うこととしている。

今般、令和3年度コンサルティング先の農業法人に対して、ソリューションの実践支援として、全農鳥取県本部管理部TAC推進課と連携して、圃場管理ツール「Z-GIS」の実機操作により説明を行った。

本ツールは航空写真などから特定した圃場と、エクセルにより作成した管理表を紐づけることで、作業内容・実施日などを管理することができるツールである。

これにより多数の圃場の作業内容などを一元管理することができるほか、スマートフォンなど複数の端末から閲覧可能であることから、組織内での情報の共有化が容易となる。

説明を受けた農業法人代表者の反応は上々であり、導入について検討する意向である。

今後も、担い手コンサルティングの取り組みを通じて、担い手に有益なソリューションを提案するなど、取り組みを強化していく。

## 6. JA共済連鳥取の取り組み

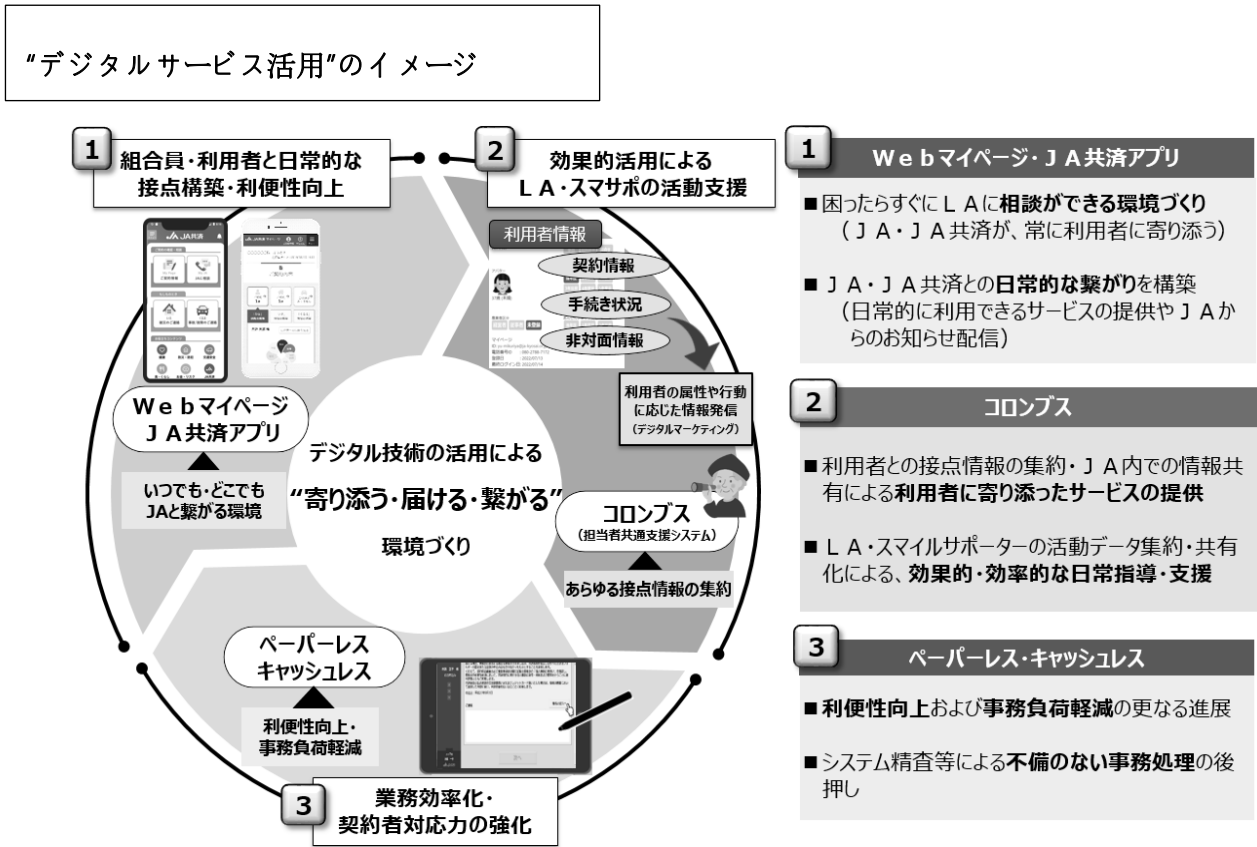
### 持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向けて～デジタルサービスの活用と拡大～

JA共済では、組合員・利用者に「寄り添い」、包括的な安心を「届け」、農業・地域社会とより広く・より深く「繋がる」ことで、地域への保障充足に向けた取り組みを展開し、「持続可能なJA経営基盤の確立・強化」の実現を目指している。

「寄り添う」「届ける」「繋がる」環境づくりとして“デジタルサービスの活用”も順次拡大を進めている。

Webマイページ・JA共済アプリでは組合員・利用者と「いつでもどこでも繋がる」環境を、コロンブス（担当者共通支援システム）では利用者のあらゆる接点情報を集約し、JA内で情報共有することで、より利用者に寄り添えるサービスの提供を目指す。また、ペーパーレス・キャッシュレスでは活用率を向上させることで、利便性の向上とJA内の事務負担を軽減し契約者対応力の強化を目指す。

令和5年度以降も順次デジタルサービスの機能を充実させ、利用者と日常的な接点を構築し、利用者の状況に応じたサービスの提供を進めていく。



鳥取県での推移状況	令和3年3月末	令和4年3月末	令和5年1月末
Webマイページ登録者数	—	1,138人	4,754人
長期共済新契約ペーパーレス割合	88.2%	87.8%	89.1%
長期共済新契約キャッシュレス割合	89.4%	91.1%	90.6%

以上